

4 周辺環境への影響

大気質

地上との連絡路が必要になるジャンクションまたはインターチェンジ付近では、排出ガスによる影響が生じる可能性があります。また、トンネル内の排出ガスを処理するため、ジャンクションやインターチェンジでは、換気所の設置が必要となります。ここでは、自動車の走行による影響と換気所の設置について比較しています。

大気質の状況

関越道とのジャンクション部、目白通りインターチェンジ及び青梅街道インターチェンジ周辺の大気質を測定しています。測定結果の一例を右に示しています。

		実測値(冬季、春季、夏季、秋季の観測データより)		
		練馬区 区立上石神井体育館	杉並区 区立横井第四小学校	練馬区 目白通り
二酸化窒素 (NO ₂)	ppm	0.013~0.046	0.009~0.047	0.005~0.052
浮遊粒子状物質 (SPM)	mg/m ³	0.006~0.076	0.011~0.075	0.013~0.070

自動車の走行

目白通りと青梅街道にインターチェンジがない場合

関越道とのジャンクション部の連絡路付近では、地上を走行する自動車からの排出ガスによる影響が生じる可能性があります。

目白通りと青梅街道にインターチェンジがある場合

関越道とのジャンクション部の他、目白通り及び青梅街道インターチェンジの出入り口付近では、地上を走行する自動車からの排出ガスによる影響が生じる可能性があります。

換気施設

目白通りと青梅街道にインターチェンジがない場合

関越道とのジャンクション部には、1箇所の換気所が必要となります。

目白通りと青梅街道にインターチェンジがある場合

関越道とのジャンクション部に加え、青梅街道の北側に1箇所、南側に1箇所の換気所が必要になります。なお、目白通りインターチェンジの換気は、関越道とのジャンクション部に設置される換気所と共用することができます。

大泉ジャンクション、目白通りインターチェンジ、青梅街道インターチェンジと換気所の位置のイメージ図

大泉ジャンクション、目白通りインターチェンジ

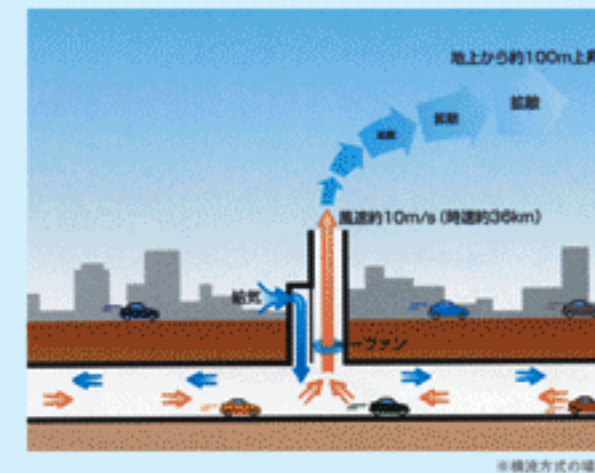


青梅街道インターチェンジ



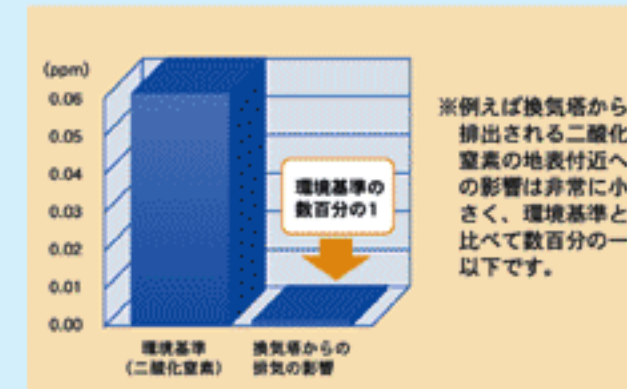
※イメージベースであり、実際とは異なる場合があります。
※換気所の位置や高さは、今後詳細な検討の結果、変わる可能性があります。

換気所における排出ガス・騒音対策とその事例（中央環状新宿線）

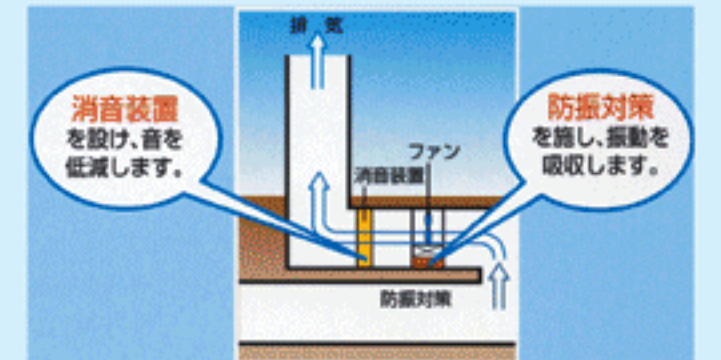


- 自動車から出る排出ガスは、換気所から取り込まれた空気によって薄められます。その空気を換気塔から出しますが、このときの空気に含まれる排出ガスの濃度は、工場などの煙突から出る煙に含まれるガスに比べて大変低いものです。
- この事例では、換気塔から約10m/秒の速度で地上から100mの高さまで吹き上げます。この結果、排出ガスは大きく拡散し薄められ、周辺に与える影響は極めて小さく抑えられます。

※中央環状新宿線では、トンネル内に含まれるNO₂（二酸化窒素）やSPM（浮遊粒子状物質）を除去する低濃度脱硝設備の設置について、準備を進めています。



※例えば換気塔から排出される二酸化窒素の地表付近への影響は非常に小さく、環境基準と比べて数百分の一以下です。



※換気所の騒音、振動については、換気所内に消音装置の設置および防振対策を施すことにより、敷地境界で騒音・振動の基準値を下回ります。また、既設換気所の騒音測定事例によりますと、騒音レベルは静かな公園および図書館の室内程度です。